

第1号議案 令和5年度事業計画に関する件

令和5年度事業計画

【はじめに】

新型コロナウイルスの流行が終息に向いつつありますが、ロシアによるウクライナ侵攻によるエネルギー危機により世界的にインフレが進行するなど、市民生活にも厳しい逆風が吹いています。

そんな中、1994年2月の設立から30年目を迎えた当協会の令和5年度の事業は、30周年記念『森のしづく文庫』を発行する予定です。また、当協会ほか3団体が提出した「ヤイロチョウのさえざる町づくり条例」の請願が、2022年3月議会で可決されたにもかかわらず、前向きな取り組みが進んでいない状況があります。

全国からの会費・募金・寄附金等によって取得したヤイロチョウ保護区の森を、今後も保全・活用に取り組んでいくとともに、新たな課題として過去3年間の調査の結果明らかになった、侵略的な外来種・サンジャクによるヤイロチョウなど外来種や農作物などへ被害実態調査、サンジャクの捕獲&飼育実験等についても引き続き取り組みたいと考えています。こうした活動を進めるにあたり、資金不足を補うための新たな募金を呼び掛け考えています。

令和4年度に実施したい主な取り組みは下記の通りです。

【トラストの森の拡充と調査・保全・パトロール等の取り組み】

- 1、ボランティアによる調査員を募集&講習会等を開催し、侵略的な外来種・サンジャクによる外来種や農作物に対する影響調査や捕獲実験に取り組みます。
- 2、ヤイロチョウの森以外に当協会が保有しているトラスト地について、実態調査や活用計画について検討し、効率的な保安全管理を目指します。
- 3、こうした活動を日常的に普及啓発するため、当協会の基幹的な施設として四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターの活動を、4~6月は休館日を設けず、ボランティア的な運営を基本に、継続・発展させていきます。

【自然林再生とワンダーランドの森整備の取り組み】

- 1、子どもたちがワンダーランドで遊べるようにドングリやヤマザクラなど広葉樹の苗木を植樹する他、激減しているヤマセミなどの繁殖地としての活用を検討します。
- 2、ワンダーランドの森の周辺で、継続して原木シイタケの森づくり、ニホンミツバチの繁殖が進むように、調査研究に取り組みます。
- 3、王子ホールディングスの森に隣接して設置したトレッキングコース等を活用して、ヤイロチョウの餌となっているミミズなどの生態系の調査や、観察イベントを行います。
- 4、奥四万十地域で20年以上行われてきたブッポウソウの里づくりを応援し、希望者を対象にネイチャーセンターから車による観察会も行います。

【企業・行政・他団体と協力した森や水辺の保全活動&PR活動】

- 1, 当協会の野鳥や生態系保護について、マスコミや出版社などと協力して取り組みます。
- 2, 企業の協賛を得て、2021年・2022年に続いて、2023年も第3回目となる『ヤイロチョウの森を未来に！ぬりえ・絵画・作文コンクール』を実施します。
- 3, 8月16日「ヤイロチョウの日記念イベント」では、野鳥への関心を高めるためのイベントを行います。特に、サンジャク調査にも役立つ「鳴き声クイズ」グランプリなども開催します。
- 4, 自然保護のオピニオンリーダーを育てることを目的に、オートキャンプ場ウエルカムなどと協力して自然体験キャンプなどを計画します。

【出版活動等の強化・拡充】

- 1, 福生市の香美上水公園に劣化した中西悟堂協会の記念プレートをリニューアルするイベントを通じて、『野鳥居』12号の発行を検討します。
- 2, 『森のしずく文庫』30周年記念号を発行します。また、(仮称)『続・生態系の不思議』を『森のしずく文庫』シリーズとして出版を計画します。
- 3, 財政的な理由により、一度は年2回に変更した会報誌「森のしずく」の発行回数を年4回に復活します。
- 4, 全国的に知名度の低い侵略的な外来種サンジャクに対する知見を広めるため、(仮称)『サンジャクニュース』のような定期刊行物を発行します。こうした活動を通じて、募金・寄附金を呼び掛けます。

